

薫風の伊那谷へ

♪8時ちょいすぎのスーパーあずさ3号で、雨の新宿を出発。
甲府を抜ける頃には曇り空も晴れ、乗り継いだ飯田線の車窓から眺める眩いばかりの新緑。久しぶりに見る田植えの風景に心躍らせ、やってきました長野県駒ヶ根市。中央・南の両アルプスの山並みが美しい、初夏の風も爽やかな伊那谷のまちです。



「天竜川流域の仲間たちのフォーラム」

天竜川上流域の元気な仲間たちに呼びかけ、互いの取り組みについて発表、交流し、情報交換して行こうという「天竜川流域の仲間たちのフォーラム」は、「市民団体 天竜川ゆめ会議」企画・運営によるもの。まじめに、楽しみながら天竜川にあらゆる角度からアプローチしているこの「ゆめ会議」は、ここ2回連続して「川の日」ワークショップにもエントリーし、その多彩な活動を発信している団体です。どんなフォーラムになるのか、偵察(?)とともに第6回の「川の日」ワークショップの宣伝も兼ねて、事務局堺とHP・広報担当の犬山氏が乗り込みました。

「天竜川ゆめ会議」の水色の登り旗がはためく会場に入り、その大きさと立派さにびっくり。自分が発表者だったらちょっと緊張するなあなんて思っていたましたが、中学生も含めた34団体、堂々たる、そして天竜川へのそれぞれの熱い思いが溢れる発表が続きました。



発表のごく一部を紹介すると、天竜川総合学習館「かわらんべ」の活動、ワークショップの常連「三峰川みらい会議」のパートナーシップによる取り組み、またその一つである「アレチウリ駆除大作戦」とも連携した上伊那農業高校緑地工学科の研究発表、「百姓仕事がつくる川」を考える「ひと・むし・たんぼの会」、50年に渡る市民による天竜峡の水位計測結果の発表、また、諏訪湖浄化推進連絡協議会、リサイクルシステム研究会などのネットワークによる取り組みや、伊那山仲間が辿った“三峰

川最初の一滴”、カップの里づくり、溪流蟲魚の会、野鳥の会、やな漁、ボート持参のラフティング、漁協の取り組み、天竜川上流河川事務所のWebマガジン“Tenet”(天竜川流域ネットワーク)の紹介などなど、天竜川とのさまざまな関わり、正に天竜川上流の“今”を表す多彩な内容でした。

もちろん、「天竜川ゆめ会議」の各プロジェクトからも発表があり、その中には、昨年「川の日」ワークショップでグランプリを受賞した天竜川上流河川事務所による写真集「天竜川のあの頃」の掲載写真の現在の様子を追いかけて始めた景観チームの活動もありました。

黒メガネの男たちの正体は？

今回は発表だけでしたが、「川の日」ワークショップと同じ1団体3分という制限時間、これを守る(守らせる?)工夫が傑作でした。最初のルール説明で登場した3人の黒メガネの男たち、終了30秒前の“チン!”が鳴ると、舞台の袖からめっと顔を出し、終了の合図が過ぎても喋っていると、背後からマイクもろとも抱え込まれて引きずり降ろされるというもの。過激にも面白いこの演出、会場の笑いを誘いつつ、もちろん時間厳守の効果も抜群で、こういう楽しさは真似したいなあと思いました。ワークショップで絶賛された写真集の「天竜川の思い出を分けてください」のキャッチフレーズもしかり、企画力に独特の感性をもつ天竜川(ひとくくりしていいのか...)です。

ザザ虫は天竜川の味？

発表者を含め多くの参加者が集った懇親会では、ご当地名産の「ザザ虫」(川の中に棲むカワゲラやトビゲラの幼虫)の佃煮も登場。発表で言い足りなかった団体のアピールに迫力負けしながら第6回「川の日」ワークショップの宣伝もさせてもらいました。東北、九州、北海道、東海など地域での大会が次々と独自に催され、その交流や連携に繋がっているのは、全国の大会にと

っても嬉しいことです。このフォーラムも今回を第1回として今後の継続が宣言され、天竜川テイスト(?)で中流域、下流域と広がっていくことを予感させるものでした。やはり、発表だけではもったいない気もするので、その企画力で、意見交換や取り組みを称えあうようなアイデアなどが生まれると、またもっと面白くなるような気がしました。

とにかく、先日の北海道のワークショップに続き、第6回の開催に向けてエネルギーを分けてもらった感のある今回のフォーラム、さらに翌日は、特別オブショナル企画「魅惑の天竜川ツアー」として、「天竜川ゆめ会議」の矢澤さんと平岡さんに天竜川や支川の大田切川など、流域を案内してもらいました。そのレポートは犬山さんに譲り、この場を借りて、“天竜川の皆さん、本当に有難うございました。また「川の日」ワークショップでお会いしましょう！”
